

茎枯病に圃場抵抗性を示すアスパラガス新品種 あすたま J

茎枯病はアスパラガス栽培で最も深刻な病害で、殺菌剤を使用しても防除が難しいことから雨よけハウスを用いて病原菌の伝染を抑えることで対処してきました。茎枯病は海外でも問題となっていました。食用アスパラガスの種内に茎枯病に対する抵抗性を持つ育種素材がなかったことから、品種開発による茎枯病の克服は難しいと考えられてきました。ところが、日本固有のアスパラガス近縁種であるハマタマボウキが茎枯病に高い抵抗性を有すること、そして食用アスパラガスと交配できて茎枯病抵抗性が後代に遺伝することが発見されました。この知見から農研機構・香川県農業試験場・東北大学・九州大学が共同で品種育成に取り組み、生研支援センター「イノベーション創出強化推進研究事業 JPJ007097、2018-2022 年度」の支援を受けて 2023 年に「あすたま J」を品種登録出願しました。

☆ 技術の概要

1. 「あすたま J」は茎枯病に対して強い圃場抵抗性を示します。従来のアスパラガス品種は茎枯病に罹患すると特徴的な病斑を形成して（写真 1）激しく枯れてしまいますが、「あすたま J」は茎枯病に罹患しても枯死せず旺盛に生育します（写真 2）。
2. 「あすたま J」は、従来のアスパラガス品種と比べて細い若茎（食用部分）が数多く得られます（写真 3）。
3. 生研支援センター「オープンイノベーション研究・実用化推進事業 JPJ011937、2023-27 年度」の支援を受け、「あすたま J」の細い若茎の特徴を生かした需要の創出や農薬使用量を減らし環境負荷を低減する栽培技術の開発に取り組んでいます。



写真 1 茎枯病に罹患した
従来の品種の親茎



写真 2 従来の品種 (W) とあす
たま J (A) の生育



写真 3 あすたま J の若茎

☆ 活用面での留意点

1. 「あすたま J」の種苗供給の開始は、2028 年頃を予定しています。
2. ご質問は、農研機構 HP のお問い合わせフォームからお寄せください。
(農研機構 野菜花き研究部門 露地生産システム研究領域 柳井洋介)